

公益社団法人 **日本作曲家協会会報**

No.214

<http://www.jacompa.or.jp>

JAPAN COMPOSER'S ASSOCIATION

ソングコンテストグランプリ・2023**グランプリ・準グランプリ決定！**

日本作曲家協会・日本作詩家協会共同企画「ソングコンテストグランプリ・2023」は、今年も広く全国に作詩・作曲作品を募集した。中村美律子さん(キングレコード)を対象歌手として、1月16日～3月17日にかけて詩の募集を開始したところ全国から1,368作品の応募があった。

そして3月24日、日本作詩家協会・日本作曲家協会合同コンテスト委員会による選考の結果「愛染のれん」(作詩・羽場新一郎)、「ふうふ」(作詩・保岡直樹)の2作品が最優秀作詩賞に決定。

この2編の詩を課題詩として4月20日～6月21日にかけて当協会会員のみならず広く一般からも作曲募集を行った。「愛染のれん」会員128作品、一般111作品。「ふうふ」会員103作品、一般109作品、合計451作品の応募があった。

今年は川崎浩(毎日新聞)、清水満(産経新聞)、田家秀樹(音楽評論家)の3氏に選考委員を委嘱。6月29～30日の両日、当協会会議室において「愛染のれん」会員10作品、一般9作品。「ふうふ」会員10作品、一般11作品を選び、最終選考はキングレコード、中村美律子所属事務所、そして当協会ソングコンテスト委員会の協議により行われた。

その結果「愛染のれん」は一般からの応募・藤井つと夢氏が、「ふうふ」は会員・谷川天龍氏が最優秀作曲賞を獲得した。

そして9月4日レコーディング終了後、キングレコードにおける編成会議の結果「ふうふ」がメイン曲としてグランプリに決定した。

なお、このCDは10月11日キングレコードより全国発売となる予定。



中村美律子

◆**グランプリ**◆

「ふうふ」

作曲：谷川天龍(協会員)／作詩：保岡直樹

◆**準グランプリ**◆

「愛染のれん」

作曲：藤井つと夢(一般)／作詩：羽場新一郎

◆**優秀作曲賞**◆

「愛染のれん」岸田妙子、夏川寿里亜(協会員)、江口隆法(一般からの応募)

「ふうふ」石田光輝、五月のあきら(協会員)、江口隆法(一般からの応募)

「日本作曲家協会音楽祭・2023」出演歌手

10月10日(火)東京北区・北とぴあ「さくらホール」において開催される「日本作曲家協会音楽祭・2023」の出演者が決定。今回も「日本作曲家協会音楽祭・奨励賞」「日本作曲家協会音楽祭・3賞」そして、長年にわたり目覚ましい活躍で歌謡界をリードする歌手に「日本作曲家協会音楽祭・特別選奨」を授与しステージを飾っていただきます。併せて、ソングコンテストグランプリ曲の歌唱、日本作曲家協会創立65周年記念・全国歌謡選手権大会優勝者の歌唱など盛りだくさんの内容となります。

◆日本作曲家協会音楽祭・特別選奨◆



細川たかし
(日本コロムビア)



石川さゆり
(テイチクエンタテインメント)

◆ベストカラオケ賞◆

「サンタマリアの鐘」
作曲：幸耕平 / 作詩：山田ひろし



竹島宏
(テイチクエンタテインメント)

◆ベストパフォーマンス賞◆

「星くずセレナーデ」
作曲：Scott Taylor / 作詩：深海弦悟



辰巳ゆうと
(ビクターエンタテインメント)

◆ロングヒット賞◆

「千の風になって」
作曲 / 日本語詩：新井満



秋川雅史
(テイチクエンタテインメント)

◆日本作曲家協会音楽祭・奨励賞◆



池田輝郎(キングレコード)

「名残り花」
作曲：水森英夫
作詩：万城たかし



二見颯一(日本クラウン)

「一里塚」
作曲：水森英夫
作詩：かず翼



美貴じゅん子(テイチケンタテインメント)

「放浪(さすらい)かもめ」
作曲：岡千秋
作詩：石原信一



望月琉叶(日本コロムビア)

「百年の冬」
作曲：浜圭介
作詩：渡辺なつみ

◆ソングコンテスト・グランプリ表彰・発表◆

「ふうふ」

作曲：谷川天龍
作詩：保岡直樹

中村美律子
(キングレコード)



◆創立65周年記念・全国歌謡選手権大会優勝者歌唱◆



グラندシニア部門
片野鎌三

シニア部門
岡田明美

ヤング部門
中尾京悟

一般部門
中島雅子

ソングコンテストグランプリ・2023

☆受賞に寄せて☆

グランプリを受賞して 谷川天龍

この度は、素晴らしい賞を頂き、誠に有り難うございます。

受賞のお電話を頂いた時は、まるで夢でも見ているような思いでした。2020年には優秀作曲賞を頂きましたが今回はグランプリを受賞させて頂き、大変感激致しております。「ふうふ」という詩をしっかりと読み込んで「ふうふ ふうふと 云いながら」のサビのフレーズをどうメロディーに乗せるかが一番の課題でしたが、上手く表現出来たと自分の中では思っています。実は、今回の応募を最後にしようと思っておりましたが、「継続は力なり」続ければいい事もあるを胸に秘め今後も頑張っていく予定です。この度は有り難うございました。

準グランプリを受賞して 藤井つと夢

協会事務局から受賞のお電話を戴き、何かの間違ひではと信じられない数日ののちレコーディング日程のご連絡を戴きやっと受賞の喜びをかみしめております。それも大好きな中村美律子さんにこのメロディーを歌唱して戴けると思うと尚一層の喜びです。このメロディーを選んで下さった審査員の先生方、又関係スタッフの皆様にご心より感謝申し上げます。今迄大阪でプライベート盤の楽曲のお手伝いをしてまいりましたが、今回は格別の思いです。

今年は応募も躊躇しておりましたが強く背を押してくれたアシスタント、又私を今まで支えてくれた歌

仲間の皆様に感謝しております。これからも高齢者にも優しい楽曲作りに精進したいと思っております。

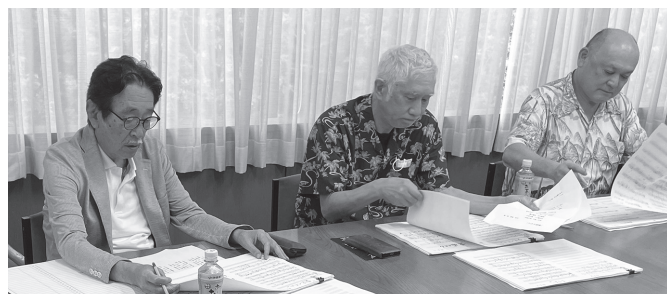
☆ソングコンテスト選考にあたって☆

キングレコード

中村美律子担当プロデューサー 渡邊曜介

このたびは、中村美律子が歌うソングコンテストに沢山のご応募をいただき誠にありがとうございます。今回の選考のポイントとして①中村美律子に合っているか②現代の空気感に寄り添っているか…などがありますが、最終的には聴いていて心地良いかどうかという「本能的な」要素が決定打になったように思います。ただ選考に漏れた中にもキラリと光る作品は数多くあり、審査する過程においても興味深く聴かせていただきました。私としても新しいヒントを少なからず発見することができ、非常に意義のある貴重な機会をいただいたと感じております。あらためて関係スタッフの皆様にご感謝申し上げます。ありがとうございました。

◆選考会風景◆



☆スタジオにて☆



「ふうふ」

向かって左から(南郷達也、谷川天龍、中村美律子、保岡直樹)



「愛染のれん」

向かって左から(南郷達也、藤井つと夢、中村美律子、羽場新一郎)

ソングコンテストグランプリ・2023

◆選考にあたって寸評◆

毎日新聞社客員編集委員 川崎浩

課題となった2作品とも、長年連れ添った夫婦の二人三脚人生を振り返る内容で「説明と解答」が事細かに綴ってある歌詩である。

審査前から「曲を付けにくいタイプではないか」という話が出たが、そこをどう凌いで中村美律子の歌が書けるかが、作曲家の腕の見せ所であろう。結果として、中村美律子のイメージに「ドンピシャ!」と「こうきたか!?!」という作品が選ばれた。

今回、全体を通して感じたことは、発想の広がりにくい歌詩につられて、曲の発想まで貧相になっているのではないかという作品が少なくなかったことである。曲を作る力とは、歌手の本質を見抜く洞察力と詩の読解力なんだな、とつくづく感じた審査であった。

産経新聞特別記者 清水満

「愛染のれん」は大阪の地名が随所に並び、夫婦が営む割烹模様が色濃く描かれている。大阪生まれの中村美律子が歌う。とてもわかりやすいが、“音付け”では言葉のイメージの強さに引っ張られ易い。想像

の世界が狭くなり、有体な浪花演歌系が多かった気がした。やさしいがゆえに難しいお題ともいえるが、“みっちゃん”なら許せるか…。

「ふうふ」は夫婦であり、或いは男女のいじらしい絆がテーマか。地域に限定がない。イメージが広がり易く、想像力が試される。もちろん演歌調でもいいし、バラード風に仕立ててもいい。“音付け”の面白さがある。ナルホドと思わせるメロディも多かった。

音楽評論家 田家秀樹

同じ「夫婦歌」でありながら二曲はかなり異なっている。「愛染のれん」はサビになりそうな強い言葉に隙がない難易度の高さ。最たるものが冒頭の「男」だ。この「男」と「女」を強調しすぎて出口を見失った曲が多いように思った。起伏や緩急をつける難しさ。“とんとん”がポイントだったのではないだろうか。

「ふうふ」も「男と女」が出てくるものの一番は「夫婦」。そこから「ふうふ」になってゆく。「ふうふ」と「ふーふー」の掛詞をどう生かすか。微笑ましく柔らかい。フォーク歌謡調があったりアコーディオンが使われていたり自由度が高かった所以だろう。

歌の言葉は曲をつけてこそ伝わる。「歌詞」と「詩」の違いを再認識した二曲だった。

公益社団法人 日本作曲家協会 第2回 オリソンマーケット&セミナー ～隠れた逸材を探す～

協会員自身が作曲された商品化されていない未発表作品(歌詩付き：作詩、歌唱は非会員でも可)を生バンドにて発表し、各レコード会社のディレクターから率直にアドバイス等をいただきます。但し、順位を決めたりCD発売を約束するものではありません。

でもレコード会社の目にとまり、何かチャンスがあるかもしれません。どうぞ奮ってご応募下さい。また、同時に各社ディレクターを交え、未来の作家達のために研究会、セミナーを開催いたします。作品発表の応援視聴や一般の方々も入場可能です。ぜひご参加ください。(企画：社会福祉委員会)

募集期間：9月4日(月)～11月10日(金)必着 開催日時：2024年2月29日(木)13:00予定

開催場所：けやきホール(東京都渋谷区上原3-6-12)

※一般視聴応援、入場無料(感染状況により入場制限あり)